

テーマ いえ

しよめい	ちょしゃ	しゅっぱんしゃ	せいぎゅう きごう	ないよう
ちいさなちいさなおばあちゃん	エルサ・ベスコフ／著 いしい としこ／訳	偕成社	エホン/ハ	ちいさなちいさなおばあちゃんが住んでいるのはちいさな家です。一緒に住んでいるネコも、家具もなにもかもとてもちいさいのです。ある日、ネコがいたずらをしていて、おばあちゃんに見つかってしまいました。おばあちゃんが「これっ、ネコや！」と大きな声で叱るとネコは森へ逃げ出してしまい、もう帰ってきてませんでした。
すてきなおうち	マーガレット・ワイス・ブラウン／さく J. P. ミラー／え 野中 柊／やく	フレーベル館	エホン/ミ	しろいとびらにレンガのえんとつ、おにわもあります。このおうちにすんでいるのは、おとこのことおんなのこと。木の上のちいさいおうちほとりたちのおうち、うずまきのかいはかたつむりのおうち。ピエロやぞうさん、みんなちゃんとおうちがあります。とおくからやってきた、そらをとぶあのすてきなおうちはだれのおうちでしょう？
人形の家にすんでいた ネズミー家のおるすばん	マイケル・ボンド／文 エミリー・サットン／絵 早川 敦子／訳	徳間書店	エホン/サ	ねずみのベックさん一家はりっぱな人形の家でくらししています。持ち主はお城のような大きなおやしきに住むはくしゃくです。春から夏が過ぎ、おやしきを見学する人がいなくなると、はくしゃく夫妻は三カ月旅行で家を留守にすることになりました。そのあいだ留守をあずかる秘書のルーシー・プライスはネズミー家を使って何かをたくらんでいたのです。
ヘンゼルとグレーテル	シンシア・ライラント／著 ジェン・カラーチャー／え 水野 るり子／訳	新樹社	エホン/カ	まずしい家で生まれ育ったヘンゼルとグレーテルは、まます母に森の奥へ置き去りにされてしまいます。家に帰るため森をさまよっていた2人がたどり着いたのは、おかしな家でした。そこに住んでいる人は2人にとても親切にしてくれました。しかし、目が覚めると、2人は悪い魔女に檻に閉じ込められていました。
家をせおって歩く かんぜん版	村上 慧／作	福音館書店	365	みなさんは、どんな家に住んでいますか？村上慧さんは、自分で作った発泡スチロールの小さな白い家をせおって歩いて、日本各地を移動しながら生活しています。夜眠るときは、お寺や神社、お店などをたずね、家を置かせてもらうために土地の持ち主と交渉します。そんな村上さんの生活をのぞいてみましょう。
町家えほん	山口 珠瑛／作・絵	PHP研究所	521	ここは、古い建物が大切に残されている、えびす小路。町家でカフェを営む福ねごさんとお豆さんが、家の中を案内してくれるようです。町家とは、お店と住まいが一体になった昔ながらの家のこと。奥に細長いつくりになっていて、風や光をとりこむ工夫がこらされています。電気もガスもなかった時代の暮らしの知恵を見てみましょう。
大坂城 絵で見る日本の城づくり	青山 邦彦／著	講談社	521	大坂城はどのように建てられたのでしょうか？まず、ほりをほっていきます。その次に、たくさんの石でいしがきをつくります。いよいよ、あしばをくみ、ほねくみからてんしゅをくんでいきます。最後にふすまやたみをしきます。たくさんの人のちからで大坂城が完成します。この本を読んで、実物の大坂城を見に行こう。
パウハウスってなあに？	インゴルフ・ケルン／文 クリスティーネ・レッシュ／絵 パウハウス・デッサウ財団／編	白水社	707	パウハウスは、白くて四角く飾り気のないのが特徴の家です。ロッテとマックスのきょうだいは建築家のお父さんが建てたパウハウス形式の家に住んでいるのですが、一体「パウハウス」って何だろう？と思っています。お父さんは二人を連れて、最初に建てられたパウハウスがあるドイツのデッサウという街を訪ねることにしました。
ネズミさんとモグラくんの 楽しいおうち	ウォン・ハーバート・イー／作 小野原 千鶴／訳	小峰書店	9-0/イ	ネズミさんとモグラくんの家はとっても近くにありますが、ネズミさんはドングリの木に、モグラくんはその下の穴ぐらにすんでいるのです。ふたりはきれいすぎでしたが、そうじのたびに、ネズミさんのはいたホコリがモグラくんの家におちてしまっていました。おたがいが気持ちよくくらせるいい方法がないか、ふたりは考えます。
おじいちゃんとおばあちゃん	E. H. ミナリック／ぶん 松岡 享子／やく モーリス・センダック／え	福音館書店	9-0/ミナ	こぐまのくまくんは、あるひ、だいすきなおじいちゃんとおばあちゃんのところをたずねます。くまくんは、おばあちゃんに、おかあさんくまが小さいときにあったこまどりの話をしてもらいます。おじいちゃんには、こびとのゴブリンの話をしてもらいます。おうちにかえるころ、くまくんはくたびれてねむってしまいました。
幽霊屋敷のアイツ	川口 雅幸／著	星雲社	913/カワ	夏休みに里帰りした田舎で、肝試しをしていた燈馬。その最中に幽霊屋敷にある古井戸で女の子を見かけるが、ふとしたはずみで一緒に井戸に落ちてしまう。気が付くと燈馬は地元の病院に入院していた。しかも、燈馬は田舎には行っておらず、何日も入院していたと聞かされる。あの出来事はなんだったのか、燈馬の不思議な体験が始まる。
本だらけの家でくらしたら	N.E.ボード／作 桜井 薫／訳 ひらいたかこ／絵	徳間書店	933/ホト	11歳の女の子、ファーンは、タイクツな両親と、暮らしていました。家には自分の居場所がないと思っていたある日、実の父だと名乗る男が訪ねてきます。その男は、ファーンは、産まれた時に病院でほかの赤ちゃんを取り換えられたのだと言います。そして、自分たちは不思議な力を持つ「ダレニアン」なのだと言われます。